

第1回ジオパーク下仁田協議会教育部会 報告

日時：令和4年6月9日（木）午後4時00分～

場所：下仁田高校 1F 会議室

所 属	氏 名	出欠	所 属	氏 名	出欠
下仁田自然学校	保 科 裕	出	下仁田ジオパークの会	高橋真理子	出
群馬県立下仁田高等学校	島田 具広	出	公民館係長	小金澤千穂	出
群馬県立下仁田高等学校	徳田 竜磨	出	社会教育主事	有賀 喜紀	出 d
下仁田小学校	大河原康成	出	下仁田町自然史館	赤 岡 明	出
下仁田中学校	榊原 秀幸	出	下仁田町自然史館	関谷 友彦	出

1 開 会

2 報 告

① 下仁田ジオパーク再認定審査 2021 の結果について

再認定審査の結果については、再認定となり、4年間で資料1のような課題が提案された。

② 下仁田ジオパークアクションプラン（2022～2026）の策定について

これまで専門部会で相談してきたアクションプランが協議会で承認され、資料2のようなプランで、今年度4月から進み始めている。

3 協議事項

各団体における下仁田学習（地域学習）の取り組みについて

下仁田学習は、小学校から中学校までの9か年の地域学習を学ぶカリキュラムとして進められている。現状における各学校の取り組み状況の現状を確認した。また、下仁田町の進めている学校を地域が支える地域コミュニティスクール事業とは、地

域の学習を通じてジオの会や下仁田町公民館などの生涯学習分野の方ともつながりもあるので、それぞれの団体の活動の現状を報告してもらいあ情報共有を図った。

(下仁田小学校)

各学年でそれぞれ、ネギ作り、コンニャク作り、ジオパーク学習、荒船風穴など取り組んでいる。新しい取り組みとして、地域でアサギマダラを観測する団体があるので、そのひとたちと連携して、チョウチョについて学ぶことを始めている。

特にネギに関しては、ネギの作り方を学ぶだけでなく、「農業」の中でどうしたら売れる農作物がつかれるのか、売上金で地域のために何か形に残るものを残せたら子どもたち自身も誇りに思えるようになればいいと思い進めている。

(下仁田中学校)

このカリキュラムが作られた頃と生徒の取り巻く状況も変わっており、現状このプログラムをそのまま継続するのは困難。

1年生は山車が出るお祭りの共通がある栃木に旅行に行ったので、下仁田と比較して調べ学習ができればと思っている。

その他、二年生の職場体験実習を地域の職場で体験することで、より深く地域が知ればいいと思っている

(下仁田高校)

高校では、3年生がコラボ研究という形で、地域学習に取り組んでいる。研究テーマは「下仁田の産業は自然の恵みをどのように活かしただろうか」というもので4年続けている。今年度は「コンニャク」をテーマにコンニャク工場の見学、水車の見学、自然史館の見学、こんにゃく手作りなどを進めていく予定。

(地域学習のコーディネーターの立場としてのコメント)

下仁田学習が作られたころから、学習指導要領の改訂もあり、総合的な学習の時間の持ち方が大きく変化している。ここ数年小中学校の授業にかかわって課題として感じていることは、下仁田学習がジオパークや歴史、文化に終始してしまうとらべる内容に専門的になりすぎて難しくなってしまう。また、調べ学習はネットや本を見て調べてそれをパンフにして終わってしまう。

例えば、下仁田を調べたことの発信を通じて、パンフの作り方（デザイン、伝え

方)などを学ぶなど、地域のものを使って学びを深めることに繋げられると思う。

また、今年度の地域学習について打ち合わせをしていく中で、先生方にお伝えしていることの一つに、先生自身がこの学習を通じてどういう目的意識を持っているのか、子どもたち(先生自身)が楽しいと思えるものを考えてほしいということを伝えている。

(下仁田ジオパークの会)

ジオパークの会ではジオサイトの清掃と清掃参加者へのミニジオ講座を実施している。また外部から依頼のあったお客様を対象にガイド活動を行っている。このほか普及の一貫として3月に1回ほど、ジオの会だよりという普及誌を作って広報活動をしている

(下仁田町公民館)

公民館では、小学生を対象にしたチャレンジキッズを行っている。その中には下仁田の山登りや自然体験も含まれている。これまでの経験を踏まえて、自然体験やモノ作り体験が探求的学びになっているのかという視点で計画の再検討を始めている。

毎年、講師や内容が同じになってきているのは、子どもにとっても新鮮味が薄れてしまっており、多様な地域の人とのふれあいがあるといいと思っている。

また、高校生になると各地から子どもたちが集まるようになるが、出身自治体で学びに差が出てきて、小学校中学校のうちにどれだけかかわれる場があるかが大きいと感じている。

こうした現状を踏まえて、チャレンジキッズでは、ジオパークなど町のほかの部署でも行う事業では体験できないモノを体験させてあげれる場を作っていきたい。

今後の教育部会についても意見交換を行いました、出た意見は次の通り

- ・現状を踏まえて、これまでの教育部会での活動は、先生方に地域の魅力を知ってもらおうという研修会を開いていたが、下仁田の場合は異動の頻度が早く、これまでと同じ方法で、下仁田学習を進めるのは先生方の現状に合っていない

- ・過去の実践例では青岩で流れる水の働きを勉強するワークシートをガイドと自然史館で共同開発しているので、色々な場面で、理科教員のOBや自然史館のような専門機関と連携すると学校自身の助けになるのではないかと

- ・総合的な学習の中で地域学習をすすめているが、基礎教科にも地域資源が使えるものもあるので、今後教育部会でどのように学校と連携していけるかについて考えていくのがいいのではないか

現状報告と今回出された意見を踏まえ、次回に各学校・団体でどういう形の連携ができるかをかんがえていくことになりました。

その他

今年のサマースクールの夏の探検やバスケット教室では、中学生、高校生にも参加を呼びかけ、小学生を案内するボランティアとして参加を呼びかけようと思っているので、中学校・高校には周知に協力お願いしたい。

4 次回の部会開催について

令和4年 9月30日（金） 15：45 ～16：45